



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1998～99年度 会長賞



国際ロータリークラブ会長 ジェームスL.レイシー

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基盤として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊敬されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。

世界理解月間

第543回 平成11年 2月26日(金)

〔本日のプログラム〕

1. 点	鐘	次回予告
2. ロータリーソング		★ 3月 5日(金)
「我等の生業」		会員卓話
3. 食	事	徳丸 彰一君
4. 会長の時	間	3月セレモニー
5. 幹事報	告	
6. 委員会報	告	★ 3月12日(金)
7. クラブフォーラム		夜間例会
8. 点	鐘	会員卓話
		吉田康一郎君

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週金曜日 (12:30~13:30)	会長	加藤 仙之
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	福井 輝文
事務局	宮崎郡佐土原町大字下那珂3887-17	幹事	吉田康一郎
	☎880-0212	会計	恒吉 正志
	☎&FAX0985-73-7170	会報委員	垂水 敏雄

第 5 4 2 回例会記録 (1999. 2. 19)

☆会長の時間

会長代理 福井輝文君

皆様 今日。加藤会長が急用で欠席されましたので、私が、会長の時間を代理させていただきます。

先々週、TVを見ていましたら、早稲田大学生の乙武君の特集が放映されました。彼は「先天性四肢切断」という障害を持ってこの世に誕生したのです。

彼の考え方はとても前向きですばらしく、終始感銘を受けるばかりでありました。私が一番強く印象を受けたことは、次のようなことです。

誕生後、初めての“母子ご対面”の時、母親の開口一番の言葉は『かわいい…』だったそうです。

この一言が彼の人生を大きく左右したのでしょうか！

そして、彼はこう言いました「多くの人達に僕の姿を見てもらい、何か疑問があったら質問をしてほしい、そうすることで、障害というものを理解してくれたら、嬉しい」と。

そういう考えのできる親もすばらしいですが、プラス思考の本人もすばらしく、見習いたいと思うばかりでありました。

五体満足の我々も仕事に、日常に色々不満を持ちます。でも考え方次第で、どうプラスに向けるか、というのがカギになるのではないのでしょうか。

若い彼から見習うものがあれば見習い、プラス思考のすばらしい人生を送りたいものだとおもいました。

☆幹事報告

幹事 吉田 康一郎 君

本日、宮崎RC幹事の児玉君より電話がありました。

パストガバナーの三重野 良輔さんが発起人になり、大相撲の横綱『貴の花』の宮崎に於ける「後援会」を結成したい（既に市内6クラブは了解済、又、横綱夫人、恵子さんの父親の河野君は宮崎RCの会員です。）佐土原RCの方もよろしかったら入会して頂きませんか？との内容でした。

次の例会でパンフレットを配布しますので、よろしくお願い致します。

例会変更及び休会通知は来て居りません。

2月14日(日)のIM出席御苦労様でした。

スポンサークラブ、中部分区代理、IM実行委員長からお礼状が参っております。

本当にシンプルで充実したミーティングだったと思います。

☆出席報告

委員長代理 田村勝二君

会 員 数	25名
例会出席者数	18名
出席率	72%
メーカーアップ者数	2名
修正出席率	80%
欠 席 者 名	神宮寺、徳丸、宮原、山本、宮本

寄りまでを相手に、勾玉・土器作りや古代の火起こしの指導を行っています。火がぼっと燃えた時の感動は、やはり体験した者でないと分かりません。人間にとって火がいかに大切で欲びであるかということが体験すると子供達にも理解でき、火が付いた時には拍手喝采します。

今後、国・県で70億円の公費を注ぎ込んで西都原古墳群の再整備を行うことになりました。どうぞ皆様方もご家族やお孫さんを連れて是非お出でいただきたいと思います。2時間～3時間体験学習して、経費は一人300円未満です。

本日佐土原ロータリークラブへの入会を認められ有り難うございました。私のモットーであります『人は人、我は我、されど仲良く。』という武者小路実篤の言葉を若い時から実践しております。人間はそれぞれ個性を持って生きて行くが、お互い仲良くしようとの武者小路実篤の生き方に共鳴しております。

新人でございますので、ロータリークラブの仕来たりなど存じておりませんが、どうぞ先輩の皆様方のご指導をいただき、できる限りよきロータリアンを目指して努力したいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

待ちに待った新入会員の江崎氏の出席で入会式を、無事終えることが出来ました。これからは新戦力として期待したいと思います。

よろしくお願い致します。

『友を読む会』

ロータリー 2月号

9月が新世代月間に当たることから、新世代委員会と共催で9月24日午後6時30分から喫茶店で『友』を読む会を催した。

テーマは「『友』から新世代活動の行動を！」。出席者は新世代、雑誌、インターアクト、ローターアクト各委員長、元会長、会長ノミニー、幹事、最年少会員ら11人。

まずは奉仕の実践と継続、その中での新世代の育成と活動の発展の道を探るべく提案。そしてレイシー会長の「子供たちの未来の為の夢」から具体的にどのような行動が起こせるかを話し合った。

率直に、自分自身の企業や家庭が満足させられなければロータリーどころではないとか、若い世代に「奉仕」を呼びかけてもこたえてもらえない、教育・しつけが悪いなどの意見。また、奉仕が本当に無欲であることをわが娘に見たりなどと、例会では、ついぞ耳にしない本音が次々と出てきた。

そして助け合いの心は、すべての人が潜在的に本能として持ち、機会さえあれば素晴らしい能力と力を発揮するもの、だれかがそのきっかけをつくれればよい。そのだれかがロータリアンであり、RAC、IACのメンバーであらう。

次々に行動が起こせたらどんなに楽しいだろう。

このような雰囲気では会は進み、食事も飲み物も、どこに入ったか分からないうちに二時間が過ぎ、最後に新世代委員長から「行動に移すときは是非協力を」と要請され閉会した。

論叢RC 野田喜久至

☆ロータリー

創立記念講話

山 脇 忍 君

ロータリーの三大責務とは

- ① 会 費 納 入
- ② 例 会 出 席
- ③ ロータリーの友を講読すること
であります。

この③の「友」の講読について全国的なアンケート結果ではほぼ共通した結果がでています。「友」をよく読む人、さっと軽く読む人、無関心層がそれぞれ三分の一であった。

この30%という無関心層が、今後のロータリー運営上極めて大きなポイントとされています。「友」を読む目的はクラブライフを通じてロータリーをよく理解し、その思想を実践していくことにより、己を磨き、よりよき指導者として地域社会への奉仕を誓う場であることです。つまりロータリアンとして、かけがえのない“心の知識”を養うオアシスが「友」であります。この「友」はしばしば読まれざるベストセラーといわれてきましたが、もし「友」を2年分、つまり24冊熟読されたら充分ガバナーはつとまると言われています。

ロータリーを知り活動の第一歩として先ず「友」を読んで頂きたいと思えます

本日はロータリーの創立を記念しての卓話でございますので、先ずロータリーの原点についてお話してみたいと思えます。更に「職業奉仕」、「奉仕の理想」にも若干触れてみたいと思えます。

ロータリーの原点を知る為には先ず、ポール・ハリスの著書を読むことであり

ます。

一つは1935年(昭和10年)に著作の「THIS ROTARY AGE」の日本語訳「ロータリーの理想と友愛」で、これは米山梅吉翁が翻訳しておられます。

「超我の奉仕」を「奉仕第一、自己第二」と訳しておられるが、このほうが非常にわかりやすい。

またロータリーは変わらねばならないとして、いずれ婦人会員が加わるだろうと予言しておられる。

しかし何といっても本書で切々と訴えているのは、ロータリーにより戦争を無くしたいと言うことです。

世界大戦前夜の世相を反映していると言えます。

又、他の著書「MY ROAD TO ROTARY」は1945年に出され、ポール・ハリスの自叙伝である(ポール・ハリスはこの後1年余の1947年1月に死去していますので、いわばポール・ハリスの遺言とも言えます) これは英語の原書ですが、抜粋したのが同じ書名で1962年にR1から出版され、その後日本語にも訳されて「ロータリーの私の道」と題して出版されています。

この抜粋は原書でのポール・ハリスの少年時代の記述を殆ど省いてポール・ハリスがロータリーを初めてからの記述になっているが、ハリスの少年時代こそロータリーの原点と思われれます。

原書では、全部で45章のうち約7割の30章にわたって、ハリスの少年時代の事が綿々と書かれています。子供の頃祖父母に育てられたニューイングランドの自然と、そこに住む人達の温かい人情が繰り返し述べられている。

それに比べて1905年当時のシカゴ

ではどうだろうか、シカゴにニューイングランドの田舎の生活を実現したい、これがロータリーの原点である。

見知らぬシカゴでお互いに友人が欲しい、此処から友情と親睦と相互扶助と寛容のロータリーの精神が生まれた。

ロータリーを一口で説明せよ、と言われれば、私は声を大きくして「寛容」と答えると言っています。

ちなみに広辞苑で 寛容 を見ますと「寛大で、よく人を許し、受け入れること、咎めだてしないこと」とあります。

また、当時のシカゴの職業倫理は地に落ちていた。その職業倫理を高めたい。これが職業奉仕の原点である。

職業奉仕については、わが国でも諸説粉々であります。

この原著によれば「職業奉仕とは職業倫理を高めること」とはっきり理解できるように説いています。

「職業奉仕」はロータリーの理念、ロータリーの思想と行動の基礎である。

それは個人を対象としているものであります。それはロータリアンの生活、ロータリアンの行動、そして就中ロータリアンの実践に関連しています。

ロータリアンがいかに生きるかという生活態度 (Rotarians way of life) であります。

我々が、その職業において、また職業を通して他人に奉仕することである。

奉仕とは他人を幸福にすることであると簡単に説明されています。

職業奉仕の生活態度として「四つのテスト」があります。

「四つのテスト」とは、要するに「軽率なことをするな。いい加減なことをいう

な。軽挙妄動をするな。自分の損得は抜きにして相手のことを先に考えよ」ということです。

先年R Iから「職業奉仕」に関する新方針が打ち出され、「職業奉仕」が本質的に個人的な責任であるという長期にわたりとらえられてきた見解から離脱を意味する」ということで「自己の職業上の手腕（知識、経験、能力など）を社会の問題やニーズに役立てることも職業奉仕の範囲内に含ませ、従って職業奉仕はクラブと会員両方の責務である」とされたことは皆さんご存じの通りであります。

しかし、あくまでも伝統的な職業奉仕の考え方を第一とし、新方針はそれに付随する、第二義的に運用した方が無理なく受け入れられるものと考えます。

「奉仕の理想」という言葉は、私どもにはなじみにくい日本語感があります。奉仕そのものが理想であるのか、奉仕のあり方の理想であるのか混乱します。

英文では「奉仕の理想」とは、他人に対し、精一杯思いやること、そして手を差し伸べて助けることであると簡単明瞭にのべています。

次に「奉仕の理想」の歌詞についての話題を申しあげます。

いま全国13万人近くのロータリアンによって歌われている日本の代表的ロータリーソング「奉仕の理想」の作詞は、前田和一郎氏（京都RC）によって作られ、1935年（昭和10年）5月の京都の地区大会で発表されています。

歌は短い方が覚えやすいこと、当時の「富国強兵」の線に沿って作った。

当時の日本の状況としては、ロータリーの日本化への強い要請があった。氏は1946年12月に76歳で無くなられ

たが、その病床で執筆された手記の末尾に「…それから、わが国はようやく戦時色が濃厚となってきた。その為〔御国に捧げん我等のなりわい〕はどこのクラブでも好評であった。しかし今や、わが国は平和国家となったのだから〔世界に捧げん我等のなりわい〕と訂正したいと思う」と記されていたということです。

作詞者の遺志にそって歌詞を変えた方がよいのではないかと思われているが、これだけ歌い慣れた歌詞を改めるのは異論が多かろうと、現在も最初のままになっております。